

ITU-T SG13 副議長 (WTSA-16 選出 (再任)) 後藤 良則氏 (NTT) に聞く

【読者のための豆知識】

SG13 (第13研究委員会)の活動内容：
IMT-2020、クラウドコンピューティング
と信頼性の高いNWインフラを中心とした
将来網

専門領域：将来の通信ネットワークのアーキテクチャの検討、標準化

略歴：1994年 東北大学大学院 工学研究科 応用物理学専攻 修了
1994年 NTT入社
2001年 ITU-T SG9に参画、映像伝送技術標準に携わる
2006年 ITU-T FG-IPTV WG5 共同議長就任
2007年 ITU-T SG16 Q21 ラポータ就任
2009年 ITU-T SG16 WP2 共同議長就任
2013年 ITU-T SG13 副議長就任 (現在に至る)



— 先のWTSA-16での選出そしてご就任おめでとうございます。
今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちは？

(後藤) 引き続きSG13副議長に再任され、標準化の場で活躍できることをうれしく思います。ネットワーク標準のプロモーターとしてSG13の活動に取り組みたいと思います。

— ご担当事項とご経歴、ITUとの係わり、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

(後藤) 標準化に関わるようになり今年で18年になります。ITUは2001年から15年間活動してきました。映像伝送、ホームNW、将来網と様々な分野を渡り歩いています。

— これから副議長として重責を担われるわけですが、次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えですか？

(後藤) SG13の最重要課題はIMT-2020の非無線部分の標準化です。日本からはNWソフト化という新しいコンセプトを提唱しています。これをグローバルなコンセプトとして推進することがSG13の最重要テーマです。



— 副議長としての抱負をお聞かせください。また、どのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

(後藤) SG13は副議長数が10名と多いのですが、議長を補佐し、ラポータを支援する中間管理職として存在感を発揮したいと思います。同時に活動の質的側面でリードしている日本の代表として活動をリードしたいと思います。

— 副議長としての難しさや壁(障壁)、そうしたことへの対処方法はどうお考えですか？

(後藤) フォーラムやオープンソースなどとの関係においてITUの地位は決して安泰ではありません。多様な参加者をまとめて独特なコアコピタンスを確立したいと思います。

— わが国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

(後藤) 結局は個人レベルでの信頼関係が大きいと思います。利害関係はあるものの、個人としての信頼があれば各プレイヤーからの協力を取り付けられると思います。

— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

(後藤) 副議長になって技術的知見だけでなく幅広い教養が人間関係を豊かにして、異文化のコミュニケーションを円滑にすると考えるようになりました。時間を見つけて読書に励んでいます。

— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

(後藤) 国際標準化は技術者にとってグローバルな視野で活動できる貴重な機会です。若い技術者がこの分野に関心を持っていただければ幸いです。